

### 海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和元年12月23日に令和元年度第2回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和2年1月～6月の見通し）が発表されましたので、その結果を基に本県海域での状況を予報します。

#### ■ 海況

**黒潮**：A型で推移する。

伊豆諸島海域の西側を北上することが多い。  
房総沖では、概ね接岸傾向で推移する。

**沿岸水温**：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。  
伊豆諸島海域は「高め」で推移する。

（語句説明）平年並：平年値±0.5℃程度、  
極めて高め：平年値+2.5℃程度  
高め：平年値+1.5℃程度  
低め：平年値-1.5℃程度

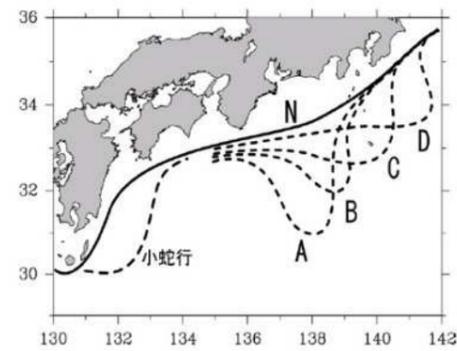


図1 黒潮流型の分類

#### ■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

●伊豆諸島海域（たもすくい）

**来遊量**：前年並。

（説明）マサバ太平洋系群の資源量の増加を受けて、マサバを主体とした好漁が期待されます。漁場は、伊豆諸島北部海域（大室出し～利島、ひょうたん瀬）を中心に、盛漁期には銭洲周辺にも形成されるでしょう。魚体は、マサバは尾叉長29～34cm（400g前後）主体、ゴマサバは30～35cm主体と、前年同様に小ぶりな個体が多くなる見込みです。



●相模湾・東京湾（定置網、釣り）

**来遊量**：現時点での予測は困難。

（説明）相模湾・東京湾のさば類の来遊量は海況の影響を受けて変動するため、太平洋系群の資源動向とは必ずしも一致せず、現時点での予測は困難です（太平洋系群の資源量が多くても、本県沿岸では獲れない年があります）。なお、令和2年6月、8月には海況のデータをもとに相模湾・東京湾へのマサバ来遊量を予測する「沿岸さば漁況予報」を公表する予定です。

#### ■ マイワシ

**来遊量**：前年並。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量は、2010年以降増加しており、太平洋側各地で漁獲量が増加傾向にあります。

相模湾では、海況等の影響により沖合域からのマイワシの来遊が変動すると考えられます。昨年は、黒潮がA型（大蛇行）で推移し、相模湾内に断続的な暖水波及があった影響で、4月に中～大羽のマイワシが漁獲されました。

2020年1月～6月も、黒潮は引き続きA型で推移すると予測されていることから、黒潮からの内側反流にのってマイワシが沖合域から相模湾に来遊することが期待されます。

なお、0歳魚（2020年級群）は4月下旬から早期発生群が漁獲されるようになるでしょう。



#### ■ カタクチイワシ

**来遊量**：低調な前年並。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少しており、特に黒潮親潮移行域等、沖合域での分布量の減少が顕著になっています。魚体も、高水準期を支えた大型成魚（体長12cm以上）の来遊が激減しており、未成魚～小型成魚が主体となってきています。

2020年1月～6月は、前年同様、資源量が少ないことから、5月～6月を盛漁期としながらも全般的には低調な漁模様となるでしょう。



#### ■ マアジ

**来遊量**：前年を上回る。

（説明）マアジ太平洋系群の資源量は、1997年以降減少傾向で、相模湾沿岸定置網での漁獲量も2009年以降減少傾向となり、近年は低位で減少傾向です。

例年、上半期に相模湾へ来遊するマアジは1歳魚が主体となります。東シナ海由来の1歳魚の来遊はあまり期待できませんが、昨年の相模湾西湘海域でのジンダ漁獲量が前年・平年を上回っていることから、2020年1月～6月の漁獲量は相模湾周辺海域での発生群が漁獲の中心となり、前年を上回ると予測されます。

